

はじめに

最良の教育は教えさせることだ、というのは教育学の世界では良く知られている事らしいのですが、秋田大学工学資源学部の土岐仁先生による全国の工学部の学生に対する学習調査の結果でも、学習したことを定着させるために最も効果が高い方法は学生のグループの中で教え合う活動をさせることであり、最低が普通の講義だったそうです。「学習」と「教育」に加えて「研究」の3つは、それぞれが深く関わります。優れた教育には研究の裏付けが欠かせません。そして研究の基礎には確かな学習が必要です。

「教師は不断の学習者でなければならない」と言われます。これは意欲を掻き立てられる言葉で、教師の仕事は大学までで学び終えた事を生徒たちに教えることでは勿論ありません。もしそうだとすれば、そつなく教えられることをゴールとするのならば、教育ほど退屈な仕事はないでしょう。学び続けることによって自分の能力を磨いて、それによってすばらしい教育を生徒に与え、生徒の学習の質を高め、同時に教師の力量が更に向上する。このような好循環に入ることを心がけたく思います。

また、共に協力して和歌山県の教育を良くしていくことを目指して和歌山県教育委員会と和歌山大学教育学部の間で連携協議会が作られたのは、全国的にも早い時期です。現在のテーマは「学び続ける教師」です。

そこで本校では子どもたちがこれからの時代をよりよく生きていくための資質や能力の育成をめざし、昨年度（平成24年度）から「仲間とともに育む柔軟な思考力」を主題とし、第2年次に当たる今年度は「多面的に考える力を高める授業づくり」に焦点を定めて研究に取り組んでまいりました。公開授業や11月の研究協議会ではこれらに基づく提案をさせていただき、広く皆さまのご意見をいただきながら進めることができました。

教員の側でも各教科で研究主題に取り組むと同時に、教科を越えて一つの方向に向かう実践研究が定着してきています。

本校ではひきつづき、基礎基本を重視しつつ先導的な研究を続けて、地域と全国に発信していきたいと考えております。この冊子にお目通し下さり、貴重なご意見をくだされば幸いと存じます。

平成26年3月

和歌山大学教育学部附属中学校
学校長 石 塚 互